

<巡検報告>(3)上野原実習報告記

大橋, 俊郎

(出版者 / Publisher)

法政大学地理学研究室

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

法政地理

(巻 / Volume)

1

(開始ページ / Start Page)

36

(終了ページ / End Page)

37

(発行年 / Year)

1950-07-01

ることにも聚落景観上の一つの特異性と見られた。バスの停留場に着いたのは未だ日高く陽炎の末大礫地塊を横断して二宮の海岸へ出ることに一決。一同車上の人となった。指導を頂いた畠田先生に謝意を表する次第である。

③ 上野原実習報告記

大橋俊郎

『上野原附近は前記関東山地（秩父古生層等の比較的古い岩石より成る）と丹次山地（予三紀層等の比較的新しい岩石より成る）との接觸地帯に在りたる地帯の一部に当り盆地状を示し、この盆地には地質時代の桂川が流れ、厚く砂礫を堆積した後、教団應記が行われ、復讐が行われた。』と大久保先生から地質の概要の御説明を受けた我々は測量器具をかついでその一つの段丘崖である駅前急な石段を登り、屋敷の中を遡る然にして新道へ出た。早速地図上に現在の位置を求め、段丘崖上の新道を面へ進みやがて田園道に出てここで平坂をすえることにした。まず粗立てながら道はあるが仲々水平にならない。簡単な作業なのであるが先生の指導を受けつつすえた。数を表しアリゲート等のぞく。ハンナングを後に置いて花目をつがって一人前の測量士になったつもりのを、土地の人が通りがかり測量屋せんかと話して行く。前方交差、後方交差により図根表を記入、傾斜だけではハッキリしなかつた傾斜をやすく理解出来る。実習の必要性をこゝでも充分感じた。トンネルの入口、山頂の独立樹等、アリゲートの小さな穴から見る世界は別世界である。簡単な傾斜でも正確な測量が出来ると先生がのべられたが実際に使用して見て是れ程なものだと思ふ。南東方に岡山先生をなぞみ深いケルン、バット、三角未端区を見る。断層崖の模範的なものを見て柱をた学習をなした。やがて出発、途中鶴川の双蕨斜面、大きな扇部侵蝕を見、上野原町に入る。『上野原は其の名の如く段丘上の聚落であり地質的中心で生糸の取引地にして養蚕は家内工業より発達し、上野原段丘は現在は稲田湖であるが以前は桑畑であつた様で鶴川から水を引いて用いたのだからと御説明がある。

水羊島、若場町、本陣跡を見学、最近本陣は焼失したが非常におもしろいことを見た、この様な例は近年度々起るが我々はこの様な文化的遺産の保存対策につとむねと感ずる。

町を通過背後の丘に登り測量実習を始め白紙上にだんごんヒヨウター

が引かれ、地図の作成課程を理解して行く。南方の上野原町を伯め段丘面が一目に見渡せ、西方の教段にわたる段丘、北面方の桂川断層（逆断層）が特に我々の目にとまった。丘を降り羽佐岡、新井、鶴川の部落を通る、漂礫床、礫部侵蝕、侵蝕後潟を途中で見る。潟をおぼえ農家に水を求めるが井戸が遠いらしく時間がかかる。水の不便なことを自ら体験し段丘上の生活の苦勞がうかがえた。旧街道と新道の比較対照の出来る所があり、陸道となった旧街道に面した部落のさびれかたも思ったよりはげしかった。しかし通信線などは未だ旧道に沿っている様であった。段丘、水利状況、発露所を見ながら新田倉、八沢、上新田を通り駅に到達す。实地に御指導を願いた犬久保先生に感謝しつゝ、飯路につく。

④ 銚子鹿島方面踏査記

今朝 洞 重美

十二月五日、思い出した椽に蒙いかゝる時雨を衝いて琴田先生御指導の下に銚子半島より鹿島砂丘に到る巡検を行つた。総勢十九名、内紅二員を加う。予め御届きした予備当識にて市川奥地砂崖の成因を考へつゝ、乗金に出る。従来單に砂丘列と考へられていた九十九里浜は海底にあつた凸凹地形がそのまゝ隆起したものであると云う識論は興味を抱いた。更に寛文年間迄湖であつたと云う稻海干拓地や奥地砂丘の上に乗る八日市場の景観を車窓より観察しつゝ銚子灣。電車に乗換えて犬吠崎迄直行した。燈台のある対置海岸の上にて詳細に銚子半島地形発達史の御講義を受ける。此処は関東地方で最も古い二疊紀から白堊紀、第三紀、洪積紀の諸岩石の層序関係がよく見られる所で、日頃教室で整合、不整合と疊の上の水線をやつて居たのが、漸く身にマハて来た。それから遼遠として最も早く開けた外川を経て犬若に到り見事な波蝕崖をなす巖風漣を眺めつゝ此の半島が全体として海蝕台地なる事及尤般桑野で見られた風隙を思い浮べつゝ被載頭河に見られるウィンドギャップの成因を御届きし更に現在は海中の小岩にすぎぬ芦笏島が昔は陸続きであつた事に海蝕の層大さを感じて太平洋を望みながら晝食。午後にははるかに眺めた風隙の中を觀察しつゝ海蝕崖の上を通つて名洗に出る。途中崖の上で珍らしい侵蝕砂丘を見た事は意外であつた。そこから隆起前後の流路の変化に就いて興味ある御説明を聞き乍ら井岡氏の所謂泥炭層なるものを見、昔